

経済建設委員会会議録

開催年月日	平成 28 年 10 月 6 日 (木)	場 所	議会委員会室
案 件	事務調査第 3 号「農業担い手対策の実態について」		
出席委員	黒岩委員長、石上副委員長、大栗委員、宇治委員、佐藤委員、広瀬委員		
欠席委員		事 務 局	澤田
オブザーバー		傍 聴 者	
説 明 員			
開 会 時 刻	9 時 5 9 分	実 会 議 時 間	1 時 間 3 5 分
		休 憩 時 間	時 間 1 5 分
閉 会 時 刻	1 1 時 4 9 分	延 会 議 時 間	1 時 間 5 0 分
次 回 日 程	未定		
要 点 記 録	<p>< 概 要 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 月 25 日～28 日の都市事例調査地（京都府京丹後市、福井県若狭町、福井県あわら市）の調査事項について、事前に取り組み内容の概要について説明。 ・ 富良野市担い手育成協議会の現状の体制では、地域育成部会に研修生の受入農家があまり関与していない。また、機構図上は地域育成部会に地域の研修作目のグループや地域の農事組合長、自治会長が構成メンバーとして入っているが、実際の活動は農業士や農業委員が中心となっている。 ・ 市の営農指導促進事業補助金は、受入農家が研修生に支払う研修手当の 2 分の 1 を受入農家へ補助するものであるが、体験実習・就農実習のヘルパーとして働く場合、受入農家は補助金をもらわずにヘルパーへ労賃を支払うこととなる。受入農家を育成部会に入れて、補助基準を検討することも必要ではないか。 ・ 新規就農者は、営農技術のみならず、地域に溶け込んでいくことが定住するためには必要である。地元の消防団などで社会貢献することで地域も認めてくれるなど、地域がまとまっていくことが重要である。 ・ 担い手となるプロの農家を目指すことも大事だが、一方で人を減らさない、地域に人を少しでも呼び込むという意味で、農的生活というか、他に仕事持っているけれど少し農業やってみたいとか、定年になって私でも出来るかなと、そういう多様なスタイルを呼び込むことが出来る幅広い取り組みを検討していく。 		

以上、委員会会議録について富良野市議会委員会条例第 27 条の規定により、ここに署名する。

経済建設委員長 黒岩岳雄